

港南台タウンカフェ通信

ふーのん

風わたる穏やかなまちの情報誌

2016.10 vol.7

¥こころ



特集 港南台どうぶつマップ

中学生レポート#18-19 中学生、仕事人に出会う

リフレッシュした笑顔を見送る理髪店という場所

ヘアサロンスカット 代表 錦山 茂人さん

こころBOXレポート

日本の文化に誇りをもって

日本の伝統文化を伝える街のお母さん

石田 恵子さん



contents



- 02 コドコ?
03 リフレッシュした笑顔を見送る理髪店という場所
ヘアサロン スカット 代表 錦山 茂人さん

- 05 港南台まちなかインタビュー[vol.7] PART 1
2016年 夏・編
しあわせだなあと感じるときは？

- 06 中学生レポート #18-19
中学生、仕事人に出会う
中学生が見て感じて伝えるまちのシゴト



- 12 [ころBOXレポート] close up 生き生き活動
ひとりの「したい」から始まった大きな動き
読書サポーターズin港南台

- 13 [ころBOXレポート] close up 生き生き人
日本の文化に誇りをもって
日本の伝統文化を伝える街のお母さん
石田 恵子さん



- 15 特集 港南台どうぶつマップ
17 港南台まちなかインタビュー[vol.7] PART 2
2016年 夏・編
しあわせだなあと感じるときは？
18 すたっふつぶやき バックナンバー

ココドコ？

撮影/さいとうたもつ

リフレッシュした笑顔を見送る 理髪店という場所



取材◎岡野 富茂子／塩崎 水映子 文◎塩崎 水映子 撮影◎齋藤 保 取材日◎2016年8月15日

ヘアサロンスカット 代表 錦山 茂人さん

Shingeto Nishikiyama



港南台から大船方面へ伸びる根岸線の線路沿い。赤・青・白のサインポールがくるくる回っている。世界共通の理容店のマーク。

最近では減ってきているけれど、店主の錦山茂人さんは「あれ程わかりやすい目

印はない」と、30年ずっと掲げ続けている。

「店名の『スカット』は先代の店主が、当時流行していたキャッチフレーズからヒントを得たのでは。いまだにその昭和な感じを引き継いでやっています」と朗ら

かに笑うのは、その先代の一人娘の由希子さん。

「私、気に入ってるんですよ」と錦山さんも笑う。実は彼女との結婚を機に、勤め人から転職してこの世界に入ったとのこと。

浮世床の昔から床屋さんは 情報の交差点

先代から弟子入りを打診された際、手先の器用さにはある程度自信はあり、技術は修行を積みめ身につくと思ったが、お客様とのコミュニケーションに自信がなかったという錦山さん。

どうせ会話するならばいっぱい情報をもらおう、もらった情報を皆さんと共有しよう、と考えを積極的にしてみた。そうすると面白いもので、話の輪が広がって、美味しいお酒やいいお店、旅行、バイクなどの情報のやり取りが生まれたという。「いつもずっと目をつぶっているおじいちゃんがある時フィギュアスケートの話になったら、ものすごい知識量でびっくりしたことがあります。荒川静香さんが大好きで『しーちゃん』って呼んでました(笑)」

「この街に引っ越してきて、お店や病院などの街の様子を尋ねるお客様もあり、情報を発信するという意味でも活用していただいています」と夫婦で語る。



心がけていること

「妥協のない仕事を時間内で仕上げた
い。お客様の頭ではあるけれど、自分
の作品でもある。それが世の中に出た
時に『あのかっこいい頭、どこで切った
の?』と思われたいですね。また、予約
制なのでお客様をお待たせしないよう
に予約の時間はきちんと守っています。

あとは『安心、安全、信頼、清潔』。さっ
ぱりしてスカットとして、気持ち良い、と
思ってもらえることを心がけています。

そして『惰性に走らないこと』です。
何回もいらっしゃっているお客様も、い
ろんな床屋の前を通り過ぎてうちに来
てくださったのだということに感謝の
気持ちを持とう、と朝のミーティングで
時々言っています。スタッフが一人前
になるまでは、そういう馴染みのお客様
に夜に来ていただいて、慣れるまで何回
もカットの練習台になっていただいた
りしているんです」

初めての散髪で切った髪で「赤ちゃん

筆」を作った赤ちゃんがずっと大人にな
るまで通ってくださったたり、普段は別々
に住んでいる家族が月に一回床屋で顔
を合わせ、三世代で並んで散髪、という
光景もあるそうだ。一番長いお客様は
四世代だという。他の街に引越して
も来続ける人もいるそうだ。

港南台の印象は

「この街に来た時、すごく綺麗な街で
すが人工的で画一的な印象を持ちまし
た。でも、30年過ごしてきて成熟した
い街になってきたなあと感じています」
と錦山さん。

「お客様も本当にいい方ばかり。時間
にも誠実で思いやりのある方が多いで
す。お話しさせていたいただいて勉強にな
ることが多いです」と由希さんも相槌
を打つ。



2Fは奥様が行う「お顔そりアトリエ R」
女性専用なので素顔でリラックスできる。

こだわりと満足

最近増えた、短時間で安く散髪できる
お店について尋ねると「あれはあれで合理
的でいい考えだと思えます。短時間でさっ
ぱりしたい方、時間をかけてシャンプー、
カット、顔を剃るのを味わいたい方。お客
様の選択だと思えます。価値観と満足度の
問題ですね。先日ちょっと奮発して高価な
錫すずの片口を買っちゃったんです。ずっしり
した重み、注いだ時の酒のキラキラした感
じ、注ぎ口の角度、酒の切れ、とっても高かっ
たんですけど大満足で。僕にとって、目指
すはその錫すずの酒器のような仕事ですね。

あるおじいちゃんがいつも帰り際に「1
時間の王様気分ですごくよかったです。1ヶ
月に1回の楽しみなんだ」と言ってくださ
います。そういう言葉をいただくすごく
嬉しいですね」

物静かな錦山さんの口から紡がれた
のは、感謝と誠意の積み重ねと、笑顔で
帰っていくお客様との信頼関係だった。



ヘアサロン スカット

横浜市港南区港南台 4-7-23
TEL : 045-832-5958
営業時間 平日 : 9:30 ~ 19:15
土日祝 : 9:00 ~ 19:00
定休日 : 毎週火曜日、第2・第3月曜日
(2F お顔そりアトリエ R は毎週月火)



しあわせだなぁ
と感じるときは？

PART ①

- 創刊号 1～66人
- vol.2 67～114人
- vol.3 115～145人
- vol.4 146～169人
- vol.5 170～197人
- vol.6 198～219人まで掲載



221. 港南福祉ホーム第2 ひまわり 職員



222. れんこんとゆかいな仲間たち



223. 自由業



224. 港南台消防出張所 所員代表



225. 戸塚在住 小箱ショップオーナー



226. KINGDOM 港南台店 美容師



227. 港南台タウンカフェ ボランティア



中学生、仕事人に出会う

中学生が見て感じて伝えるまちのシゴト

中学生レポート #18-19

7年目を迎えた「中学生、仕事人に出会う」。
 まちあるきで出会った「気になる仕事」。
 その中から自分達が選んだ取材先に緊張してかける、
 初めてのアポ取り電話。知りたいことをメモに準備し、
 写真撮影もインタビューも文章作成も自分たちの手で
 行い、誇らしいレポートが完成しました。
 投げかけた質問に意外な答えが返ってきたり、
 そこから「もっと知りたい」が広がったり。
 中学生が深めた「働く」ことへの思い。
 フレッシュな感性で作りに上げたレポート、
 どうぞお楽しみください。

「中学生、仕事人に出会う」レポート活動 概要

活動期間：2016年2月～5月

レポーター：安西 優希／坂本 早優／関 花音／武田 真奈／
 長谷川 新奈／森 真由花
 (レポーター全て：港南台第一中学校二年生)

サポーター：青木 千佳代／岡野 富茂子／菅野 裕子／塩崎 水映子／堀 恭子
 協力：港南台第一中学校／横浜港南台商店会

取材協力：有隣堂 港南台ミュージックセンター／うさぎ専門店ラルビッツ
 運営事務局：港南台タウンカフェ(株式会社 イータウン)
<http://www.town-cafe.jp>

このレポートは、ウェブサイトにも公開されています。
<http://www.e-town.ne.jp/feature/shigoto/>
 #1-17 はバックナンバーをご覧ください。

サポーター



はじめてのサポーター、はじめてのお会いする先生。先生の元気にはびっくりしましたが、周りの人たちに降り注ぐ愛情パワーは、見ていて爽快でした。レポート自体にはあまりお役に立てませんでした。面白い体験でした。ありがとうございました。(青木 千佳代)



ラルビッツさん取材して、それを文章にまとめ上げていく、中学生のみなさんの力に感動しました。そのキラキラした感性を、更に磨いていってくださいね。皆さんと一緒にラルビッツさんのレポートができたことは、新鮮で楽しい時間でした。(堀 恭子)



20年以上前にヤマハで息子と娘がお世話になった野島先生との再会でした。今もかわらぬポジティブシンキング！中学生への熱きエールを一緒にお聴きできた貴重な時間でした。(菅野 裕子)



以前から素敵だな~と思っていた先生の魅力を知ることができ、みんなで感動を共感しあって、すごく幸せな役割だな~と思いました。(岡野 富茂子)



幸せなうさぎと飼い主さんを繋ぐ鈴木さん。彼女自身が、沢山のうさぎの真ん中でとても幸せそうに笑っていたのが印象的でした。そして、レポートを書き上げていく中学生たちが、うさぎのように可愛くて、私も幸せでした。(塩崎水映子)

エンジョイ マイ ライフ!!

有隣堂 港南台ミュージックセンター



講師 野島 涼子さん Ryouko Nojima



インタビュー◎関 花音 記録◎坂本 早優
 文◎坂本 早優 / 関 花音
 撮影◎武田 真奈 / 菅野 裕子
 サポーター◎青木 千佳代 / 岡野 富茂子 / 菅野 裕子
 取材日◎2016年3月30日

日本各地に存在し、ピアノやエレクトーンなど様々な楽器を教えているヤマハ音楽教室。
 今回は港南台教室の講師、野島先生にお話を伺いました。野島先生は誰にでもフレンドリーで、ピアノを弾きだすと止まらないほど音楽が大好きな先生でした。

ヤマハの先生のお仕事

ヤマハ音楽教室では、グループレッスンを基本にしています。それは、お互いに影響されて演奏技術をより高めることができ、人前で堂々と発表することができる度胸の強さなどが育つからだと思います。先生方はまず、一人ひとりに合った教え方を探します。説明をしてできるようにする子や弾いた感覚でできるようになる子などいろいろなタイプの子がいるので、一人ずつ見極め指導にあたっています。

野島先生と音楽の仕事

30年間も音楽の職業についてきた野島先生は仕事に対してどのように思っているのでしょうか。先生は、一家全員が楽器の演奏ができるご家庭に育ち、家族でファミリーコンサートを開くな

ど幼い頃から自然に音楽に触れていたそうです。音楽と子どもが好きだった先生は、音大にいる頃ヤマハの講師になるよう勧められて先生になりました。

仕事をする上で心がけていることは、他の先生たちや生徒さんとよくコミュニケーションをとること。休日は他のヤマハの先生方と出かけたり、生徒さんの大学合格のお祝いをするなど、人間関係をとても大切にしています。

また、家でも音楽教室を開いていて、そこでは「輪が広がる教室」を目指しているそうです。最初は子どもを習わせるために来ていた親も、いつの間にか子どもと同じ気持ちになって一緒にレッスンをうけるようになる...と聞いて驚きました。親子で共感することや、音楽教室を通して社会性や協調性を身につけることを大切にしているそうです。

先生になって

ヤマハの先生を続けていると、レッスンに来る生徒さんの調子がわかるようになってくるそうです。生徒さんに教える時に「愛をもって接すること。演奏



ピアノに合わせて踊りだす明るい先生

技術が上達しなくて楽しんで出来ない子や障がいのある子にも積極的に声をかけたり、スキンシップをとることで心を開いてくれるようになります。

「人として生まれてきてできないことではない」。

先生が何度もそうおっしゃっていたのが印象的でした。

元気のひけつ

仕事を始めてからこれまでほとんど病気にならず、いつも明るい先生。元気のひけつは「人生を楽しんだ方がいい」という考え方。

幼い頃から好きだった犬を4匹も飼っている先生。ディズニーが大好きで、毎年アメリカのディズニーワールドに息子さんの通訳付きで行って楽しんでいます。

「ご主人が病気で車椅子の生活になられた時もくよくよしても仕方ない」と前向きに捉えてきたそうです。ご主人もポジティブな方で、嫌な事やつらかった事を家族全員で乗り越えていく素敵な家族だと感じました。

そんな先生だからこそ、生徒さんは楽しくレッスンを受ける事ができ、心が育っていくのだと思います。



有隣堂 港南台ミュージックセンター
 横浜市港南区港南台 4-17-22
 受付時間：月～土：10:00～21:00 日：10:00～18:00
 定休日：祝日
 TEL：045-831-4302
<http://www.ms-yurindo.jp/shop-classroom/konandai/>

うさぎの幸せがいちばん

うさぎ専門店 ラルビッツ

店長 鈴木 順子さん Junko Suzuki

インタビュー◎安西 優希 記録◎長谷川 新奈 文◎安西 優希 / 長谷川 新奈 / 森 真由花
 撮影◎森 真由花
 サポーター◎塩崎 水映子 / 堀 恭子
 取材日◎2016年3月31日



まち歩きの中でうさぎ専門店が港南台にあることを思い出したこと、うさぎ好きのメンバーがいたことから私たちはラルビッツさんに取材に行ってみることに決めました。

👉 ラルビッツさんの仕事って？

ラルビッツさんでは、ホームランドロップという種類のうさぎの自家繁殖と、販売はもちろん、爪切りやグルーミングなどのお世話もしています。

その他、飼い主さんからわからない事の相談を受けたり、うさぎ専用ホテルとして預かることもしています。預かりはなるべく家にいる時と変わらない生活を維持することを大切にしているそうです。

👉 店名の由来は？

店長の鈴木さんが初めて飼ったうさぎの名前が「ビッツ」と「ラルゴ」だったため、お店の名前がラルビッツになりました。鈴木さんは、この2羽のうさぎを飼って、うさぎと一生暮らしていかたい、そしてそれを仕事にできたなら素敵だなと思い、うさぎ専門店を始めただけです。

👉 飼い方に絶対はない？

うさぎはさびしいと死んでしまうというのは単なる噂で、本当は縄張り意識が強く、一頭飼育が向いています。忙しい人にはツンデレ(猫みたい)な女の子が、一緒に遊びたい人には後追いをしてくる甘えん坊の男の子がおススメだそうです。

爪切りをすることはうさぎを飼う上で大切なお世話の一つです。

「抱っこ」は爪切りをする時に重要になってきますが、うさぎは基本的には抱っこが嫌いなのだそうです。なぜなら自分の意志に反して足が宙に浮くことは身の危険だと本能的に感じるからです。なので、うさぎに抱っこを好みにさせるより、飼い主さんが抱っこを上手にできるように練習する事が大切です。つまり、健康チェックも含め、うさぎを抱っこするというのは後に大切なスキンシップとなるのです。

また、生活音にびっくりさせないようにラルビッツさんでは、小さい頃から生活音に慣れさせたりしているそうです。(お店では嵐の曲が流れていました…)

そして、「何より大切なことは自分の飼っている子が一番可愛いと思



手の中にすっぽり入ってしまう生後30日の兄弟うさぎ



「ビッツ」と「ラルゴ」のプレート



世界最小のたれ耳うさぎがホーランドロップです。



う事。うさぎの飼い方についての本は主に基本の飼い方が書かれていますが、飼い方に絶対はないので、その子にあった飼い方をする事を心がけて下さい」

「また、うさぎは本能的に具合が悪い事を隠してしまいます。飼い主さんから見て元気そうだけど...とだけどがつく場合は、様子を見てからではなく、すぐ病院に連れて行って下さい」と話して下さいました。

うさぎを売る時はさびしいですか？

最初は大事に育ててきたうさぎと別れるのは寂しいという気持ちもあるけれど、新しいおうちが決まり、その飼い主さんのもとで大切にされ、幸せになっている子がほとんどなので、手離す時は喜んで安心して飼い主に託しているそうです。
また、ラルビッツさんでは販売前の仔うさぎには名前を付けないそうです。鈴木さんは、
「飼い主さんから初めてつけてもらう名前と呼ばれる方がうさぎにとってはきつと幸せなので、うさぎと一緒に飼い主さんを待っています」とおっしゃっていました。



取材当日生まれたばかりの赤ちゃん。おかあさんうさぎが胸の毛を抜いて作った温かいお布団にくるまれていました。

この仕事をやっていてよかったと思うことは？

赤ちゃんうさぎをむかえていたただくこと以上に、買われて行って寿命をむかえたうさぎの飼い主さんが、悲しんでいる反面、「この子との楽しく幸せな時間をありがとう」「ここで買って良かった」と言って下さることが一番嬉しいそうです。
その話を聞いた時、うさぎが亡くなってしまふことは悲しいことだけれど、その言葉で、飼い主さんと鈴木さん、みんなの幸せが繋がったように思えました。



うさぎ専門店 ラルビッツ
横浜市港南区港南台 2-8-15
営業時間：平日 13:00 ~ 19:00
定休日：火・水曜日
TEL 045-831-8008
HP : <http://www.ralbitz.com>

鈴木さんは、うさぎ専門店としてお仕事をすることで大切なのは、「うさぎの幸せが一番」と思うことだとおっしゃっていました。その思いが、この「ふるのん」を通じてみんなに広がり、しあわせなうさぎと飼い主さんが増えていくといいなと思います。

編集後記



取材は初めてでしたが、仕事に対する思いや生き方など、将来のためになるお話を聞くことができました。また、文章にまとめるのも難しく伝えたい事を読みやすく書くのは大変でした。読んで頂いた方に私たちの思いが伝われば嬉しいです。貴重な体験をありがとうございました。(関 花音)



この活動をするまで、うさぎのことなんて知ってもいいことないし…と勝手に決め付けていました。でも、取材をしてみると、うさぎってこんなにかわいいんだとか店長さん、飼い主さんそれぞれの色々な思いにふれて、ああ、うさぎっていいな、仕事してる人ってかわいいなと思うことができました。そして、決めつけずに興味を持ってみることで、これがとても大事だと気づくことができました。この活動をしてよかったです。(安西 優希)



学校外での活動にあまり積極的に取り組んだ事がなかったので、すごく良い経験になりました。私は書記をしました。3つの役割の中で一番やりやすかったけど、インタビューが始まると実はすごく大変でした。でも、すごく良い話が聞けたので、自分たちで記事が書けて嬉しいです。ほぼ初めての経験だったので最初は緊張や不安があったけど、サポーターの方がすごく優しくって毎回楽しく活動できました。私たちの伝えたい事がたくさん詰まった記事です。是非読んで下さい!(坂本 早優)



鈴木さんがこの仕事をやっていて良かった事は、ラルビッツを買ったうさぎが死んでしまった時にありがたうと言われる事と聞いて本当に感動しました。鈴木さんは何をするにもうさぎの幸せを考えていて、その思いがうさぎに伝わり、飼い主さんへと伝わるのではないかと思います。そんなラルビッツは幸せの源。私はこれから、鈴木さんのように自分のうさぎを一番にかわいがり、うさぎの幸せを大切にしていこうと思います。(長谷川 新奈)



私は3歳の時から野島先生にピアノを教わっていたので、先生の知らないところは少ないと思っていました。でも、インタビューをしてみたら先生の知らないところ、意外と多いんだなということに気がきました。そして、今回インタビューをして人生に対して勇気もらえるような言葉や大切なことをたくさん学ぶことができたと思います。私はこの貴重な体験ができたことをとても嬉しく思います。(武田 真奈)



今回、私は撮影を担当しましたが、自分の撮った写真がタウン誌に載るなんて最初で最後の経験になると思います。うさぎについても沢山知れましたが、しっかりと皆さんの興味を持ってもらえるような写真を撮らなければという責任の重さを知ったのが一番です。このような経験ができた事は私にとって大切な宝物です。ふ〜のんのみなさん、ラルビッツの鈴木さん、そしてうさぎ達に心から感謝しています!(森 真由花)



close up
活き活き 活動

レポート◎ 青木 千佳代 / 菅野 裕子
文◎青木 千佳代 撮影◎ 森田 泰子
取材日◎ 2016年8月2日・8月25日

ひとりの「したい」から始まった大きな動き

読書サポーターズ in 港南台



港南台テント村に出店

「図書館砂漠港南台」をオアシスに！

様々な施設・サービスが充実している港南台。しかし、図書館に関しては、最寄りの栄図書館まで3 kmも距離のある「図書館砂漠」だった。

最初は、たったひとりの「近くで、読みたい本を借りられるようにしたい」の思いから始まった。その思いが「図書取次サービス」に至るまでに、様々な過程を経ている。まずは「活動する組織」になるのも簡単にはいかない。連合自治会に働きかけ、区役所に足を運んで…など、何度も繰り返し要望を出し続けていくことで、その純粋な気持ちに心動かされる人の輪が広がり、ついには「港南台駅周辺に図書取次サービスの設置を推進する会」が2009年に発足した。

それから、定期的話し合い、街頭アンケート実施、中央図書館や他区の図書館訪問、区役所との話し合いなどの7年間の絶え間ない活動を重ね、今年1月、「港南台地区センターでの図書取次サービス」開始に結実した。このサービスは、横浜市立図書館の蔵書をパソコンやスマートフォンで予約すると、港南台地区センターで借りることができ、また、市立図書館から借りた図書も港南台地区センターで返せるサービスだ。港南台に住む人にとって、市立図書館18館の約400万冊の蔵書が身近な場所で借りられるようになったのは、大きな出来事である。

「港南台地区センターでの図書取次サービス」が今年1月に開始

サービスの開始とともに、これまでの活動は、住民のボランティア組織「読書サポーターズin港南台」（代表：廣畑成志さん）と形を変えて継続。取次サービス事業の充実、読書環境の充実と愛読活動を促進することを目的とするものとなった。

実は、この活動は、現在28人の読書サポーターズ会員の手弁当で運営されている。会議室代、さまざまな印刷代など、会員のカンパや地域の人の寄付でまかなわれている。

会員は、出版社勤務、図書館勤務、Bookカフェをご自宅で開催している人など老若男女、多種多才で好きな人が多い。中には、特別、本好きではないものの会の穏やかな雰囲気が入って入会したメンバーもいる。

港南台に読書文化を！

現在の取次サービスの利用者は、徐々に増えつつあるが、まだまだ認知されていないのが実情である。まずは一日50人の利用者が目標。そのため、読書啓蒙活動の一環として、港南台地区センター内に、「わたしのおすすめの本」という掲示板を作成した。これは、サポーター会員がおすすめの本を、自分のことばで伝えるものだ。当面は会員が毎月輪番で紹介するが、会員以外でも、書きたい希望があれば、今後受け入れていく予定である。また、運営資金を調達するために、地域のイベントでブックフェアなども行う。来年1月には1周年記念事業を企画中。和気あいあいとした雰囲気でのいろいろなアイデア

を出しつつ毎月1回の打ち合わせを楽しんでいる。読書サポーターズ会員、募集中。

問合せ先
読書サポーターズ事務局 竹内 義裕さん
TEL:045-832-3242



図書取次サービス 港南台地区センター（港南区港南台 5-3-1）

【図書を受取】

月曜日～土曜日：12時30分～午後8時
日・祝：12時30分～午後4時

【図書の返却】

月曜日～土曜日：午前9時～午後9時
日・祝：午前9時～午後5時

【休所日】第4月曜日（祝休日の場合は翌日）、年末年始



蔵書検索、予約もできます。

こころBOXレポート

close up
活き活き人

日本の伝統文化を伝える街のお母さん

石田 恵子さん Keiko Ishida

レポート◎菅野 裕子 / 鳥海 知恵子 文◎鳥海 知恵子 撮影◎菅野 裕子 取材日◎2016年8月18日



のりとお茶 いしだ園 港南台店

横浜市港南区港南台3-6-20 TEL : 045-833-3448 FAX : 045-833-2905
営業時間 : 9:00~19:00 不定休 HP : <http://www.ishidaen.com/>

お茶は日本の伝統文化

「お茶は日本食と同じ誇るべき伝統食なの。でもそういう風を意識してくれる人はまだ多くないわね」そう話すのは、港南台の駅近くで41年、茶舗いしだ園を営む石田恵子さん。地域の小学校から依頼を受け、「おいしいお茶の煎れ方」の事前授業を行っている。「滅茶苦茶にしないでね、って子どもたちにもよくいうのよ。『滅茶苦茶』って当て字だけのお茶の言葉なのよ」「急須の中に入っている茶漉し。あれがよくないのよ。葉っぱが広がらないんですもの。煮物を作る時に取り出すのが楽だからって野菜を袋に入れて煮ないでしよう？茶葉が自由に広がらなくっちゃ美味しいお茶にならないの」石田さんが子どもたちに伝えているのはお茶の煎れ方だけではなく、ことわざや慣用句、作法や礼儀まで。話は実に多岐にわたる。

「お茶屋さんも売る事ばかりでお茶の煎れ方や効能はあまり伝えてこなかったのね。どこの家庭にも年寄りがいて、生活のなかで自然に伝わってきていたから、誰かが教える必要なんてなかったんだもの」最近の子どもたちがお茶を飲まなくなったのは、お母さんが美味しいお茶の煎れ方を知らないからだと言念がる。

人の世は山坂多い旅の道

昭和10年生まれ。学童期はすでに戦争真っただ中。米屋だった実家は戦時の配給制度で小売りが出来なくなりお茶屋に転業した。疎開、疎開で転校ばかり。世の中も教育制度もコロコロ変わって本当に勉強どころじゃなかったわ。大人になってからだいぶ苦労もしましたよ」溢れんばかりの豊

豊富な知識は、新聞や様々な本、お客様との会話の中から独学で身につけたという。「感謝の気持ちさえあればいつでも、何からでも学べますよ。日々は勉強です」石田さんは笑顔でそう話す。

マルちゃんは招き犬

あるとき、石田さんは店先で一頭の迷い犬を保護する。すると数日後に「おばさん、この犬どうしたの？」と近所の子どもたちが駆けこんできた。話をきけばこの犬は、団地に住む数名の小学生がこっそり飼っていた『マルちゃん』だという。喜んで返そうとすると「僕たちの団地では犬を飼えない。必ず順番で散歩しにくるからおばさんここで飼って」と頼まれてしまった。弱ったなど思ったものの、子どもたちの熱意に負け店頭で飼うことを決めた。子どもたちは自主的に『マルちゃん友の会』をつくり会員証を発行し、お店は友の会の事務局に、親たちもまきこんで、みんなで世話をしたという。休みの日は子どもたちがいつも入り浸り、散歩の順番待ちをすることも多かった。マルちゃんに子犬が産まれて里子に出す時には、獣医さんにもらった『犬の飼い方』のコピーにお赤飯をつけ、みんなで撮った集合写真と一緒に渡した。「飼ってから、亡くなるまでの16年間マルちゃんはこの看板犬でした。おかげさまでいい時間を過ごさせてもらいましたよ」石田さんは目を細めながら話す。今でも当時の親や子どもたちと親交があり、思い出話に花を咲かせるという。



看板犬マルちゃん

犬でした。おかげさまでいい時間を過ごさせてもらいましたよ」石田さんは目を細めながら話す。今でも当時の親や子どもたちと親交があり、思い出話に花を咲かせるという。



港南台第三小学校わくわくチャレンジにて



(右下) お手製レシビもたくさん
(中央下) 雑学を楽しむ会サロン代表もつとめる



お茶屋は昔のコミュニティーカフェ

お茶屋はほっと一息つくところでありたいと、店内にお茶を飲めるスペースをつくっている。最近では保育園のお迎え帰りに赤ちゃんを連れて通ってくれるお客さんもいる。石田さんと楽しくおしゃべり。そのひとときでリフレッシュできるのが好評だ。

「子どもには綺麗な言葉の形容詞をたくさん教えなさい、ってよく言うの。素敵ね。かわいいね。優しいね。そういう言葉をたくさん心に染み込ませてあげるのよ。小さな子どもは吸い取り紙だって私の母はよく言っていました。子どもの言葉は大人の『コピーね』」

母から子へ、祖母から孫へ、受け継がれてきた物の考え方や日々の暮らしの知恵。核家族化がすすみ色々な文化が自然には伝わらなくなったことを憂いながらも、それを惜しみなく他者へ伝える。時に優しく、時に厳しく。相手を思うからこそ、石田さんは必要な事を伝え続ける。まるでみんなのお母さんだ。

私たちはわざわざわしいことを容易にしてくれるものを望み、便利な生活を手に入れてきたようにみえる。人と関わらなくても画面越しに欲しい答えを探せるようになり、家に居ながら買い物もできるようになった。けれど、選びとらずに削ってきた様々な「ひと手間」は、日本の文化でもあり、誰かのために「手と時間」をかけたぬくもりでもあった。「将来の夢はお茶を世界文化遺産にすること。できたら2020年のオリンピックまでね。みんなに日本文化に誇りをもった国際人になってほしいのよ」石田さんは未来をみつめ朗らかにそう笑った。

「『ペットたちが愛されているなあ』と感ずます。港南台は優秀な飼い主さんが多いですね」（岡野先生談）

● うさぎ専門店ラルビッツ



港南台中央公園の
タイワンリス
生き生きプレイパークで
会えるかも!?
可愛いけど木の皮をむい
てしまうのが困りもの



● パン屋さん「ばねとんちーの」
看板犬コロネちゃん（♀）
お客さんの人気者



● おせんべい「ミツ山製菓」の看板猫ゴンちゃん（♂）



夜型なのでほとんど朝帰り。
昼間は眠いみたい。



● 洋光台緑地公園トンボ池
アオサギを緑地の中で発見！毎
年かかるが親子も見られるそう。

● まるつか動物病院

「猫好きの方、いつでもさわりに来て下さい。
患者さんでなくてもどうぞ」と、とにかく動物
好きの丸塚先生。



窓辺の「部長」(♂)



主に外にいる「チー」(♀)
と「グレ」(♂)



家の中が好きな
「ダッチュ」(♀)

● 瀬上市民の森のホテル



懐中電灯や車のライトは苦手です。
静かに見守ってね。



生き物にもやさしい港南台のまち 港南台どうぶつマップ

レポート◎金子いずみ



アンジュ Angeドッグカフェ

愛犬と過ごす癒やしのひとときを。お散歩ついでにひと休み。メニューはドリンクの他パスタなど。ワンちゃん用おやつは持込み可。10～3月は10～17時 4～9月は11～18時 木曜定休(臨時休業日あり)



美し野幼稚園の やぎのリボンちゃん(♀)



正門わきにいます。おとなしいです。

港南台駅前のムクドリ

夕暮れ時、樹上のさえざりのかまびすしいこと



レストラン「味楽亭」 のインコちゃん

いつも子どもたちの注目の的



おかの動物病院



「災害時のペットは心配ですね。避難生活の準備として、日ごろから箱に入れる訓練と、いろいろなものが食べられるように。はぐれてしまった時の用心に、注射で登録IDのマイクロチップを埋められます」と、やさしい岡野先生。

港南台どうぶつ病院

「動物も人間と同じです。中年と言える歳になったら、年に1度は健康診断をおすすめします。早期発見のために、ぜひ。往診もしています」と、イケメン黒澤先生。





228. お顔そり アトリエ“R”



229.(有) 神奈川空調工業 社員

しあわせだなあ

と感じるときは?

PART 2



230. 港南台生き生きプレイパーク プレイリーダー



231. 港南台在住



232. 小坪小学校 教諭



233. 港南台地区センター 館長



234. 港南台地区センター スタッフ



235. 港南台生き生きプレイパークにて



236. 小坪っこ 4人のゆかいな仲間たち

地域の人たち（生き物も含む！）にスポットを当てた「ふ〜のん」。知らなかった人もお知り合いになった気分。初スタッフに感謝です！（青木）

いつもの当たり前の景色。そんな日常の中に、いろんな人の思いや笑顔、技やがんばりが詰まっている。知るたびに「いいな〜」「いいな〜」が増えて満たされた気持ちの自分がある。（岡野）

今回もとても楽しく編集作業に加わらせていただきました。一度やったらやめられない、「ふ〜のん」ボランティア！（金子）

「ふ〜のん」やっていると嬉しいことはたくさんあるけれど、小学生に読み聞かせている友人から「ふ〜のん、いいね！中学生レポート読もうかしら」と言われた。これは嬉しいです。（菅野）

vol.4 から参加させて頂いてもう3年目。なのに1500文字くらいと言われた原稿の初稿が8000字になってしまって、推敲前に滝汗。（塩崎）

食べたものが身体をつくるように、私たちが今、日常の中で選びとっていくものこそが文化を作っている。日常生活は未来をつくり続けることだったのか。（鳥海）

あ、この場所は…と、思わず足をとめて振り返る。今まで何気なく通りすぎていた景色の中に、ストーリーがあると気付くことが出来た「ふ〜のん」初取材の夏でした。（森田）

結構どきどきしながら声かけてます。スケッチブック持って近づく私を見かけても、逃げないで下さい！1000人インタビュー、まだまだ続きます。（田中）



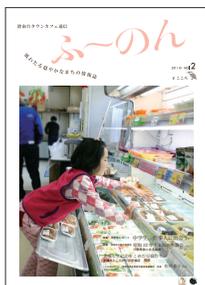
いつもファインダーの向こうに、たくさん笑顔や想い、まちの営みや歴史が垣間見えてくる、そんな暑いふ〜のんの夏、悪くないですね〜（さいとう）

明日入稿。
残るは画像のチェックだな。（塚原）

バックナンバー



創刊号 2010年10月発行



vol.2 2011年10月発行



vol.3 2012年10月発行



vol.4 2013年10月発行



vol.5 2014年10月発行



vol.6 2015年10月発行

バックナンバーご希望の方は、右記お問い合わせまで、ご連絡ください。在庫がありましたら、お送りします。（送料負担をお願いします）

ボランティアスタッフ
(企画・取材・編集)

青木 千佳代
岡野 富茂子
金子 いずみ
菅野 裕子
塩崎 水映子
鳥海 知恵子
森田 泰子

デザイン

塚原 祥子

事務局

齋藤 保
田中 美和

港南台商店会情報部会

恩田 学
岡本 征一

その他、中学生職業体験レポート活動、インターンシップなどの活動として参加されたみなさんのご協力により編集・作成されました。

発行：港南台タウンカフェ通信編集委員会
協力：横浜港南台商店会
後援：港南台連合自治会、日野連合町内会
制作：株式会社 イータウン

次号は
2017年10月頃発行予定です。

お問合せ
港南台タウンカフェ
TEL：045-832-3855
住所：横浜市港南区港南台4-17-22 ブックスキタミ2F
URL：<http://www.town-cafe.jp>

この冊子が、まちへの関心を生み出したり、
新しい出会いや楽しいことが生まれるきっかけになればいいな…。
地元商店主、学生、主婦…みんなそれぞれの暮らしの中で
まちへの想いをもってつくりあげた、参加型の手づくり情報マガジンです。
ふ〜のんで一緒にまちを楽しんでいただけたら嬉しいです。



港南台タウンカフェサポーター募集中

「ふ〜のん」発行や、テント村運営・市民レポーター育成など、港南台のまちづくり活動推進のためにご協力をお願いします。

サポート費用 一口 1,000円（年間） 複数口も歓迎いたします
（団体・企業様は10口以上でお願いしています）

ゆうちょ銀行振替口座 00290-0-124517 港南台タウンカフェ
※港南台タウンカフェでの納入も可能です（現金のみ）



詳細はこちらまで 港南台タウンカフェ TEL: 045-832-3855 FAX: 045-832-3864

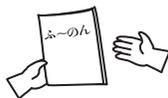
あなたにできること



カンパで協力



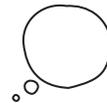
サポーター
(応援会員)になる



読み終わった「ふ〜のん」
を知り合いに手渡す



まちのネタを集めて
知らせる



「ふ〜のん」の
感想を寄せる

港南台タウンカフェサポーター

村上 佳江/杉浦 真知子/多田 真理子/外崎 学子（敬称略・順不同）
※2015年10月～2016年9月末までにご協力いただいた方をご紹介します。



吉田歯科クリニック

(株)住宅リフォーム神奈川

金子内科診療所



「ふ〜のん」は、「彫刻と野鳥とマロニエの街・港南台」をキャッチフレーズに
まちづくり活動を行う「横浜港南台商店会」が中心となって発行している市民
参加型の手づくり情報マガジンです。
商店会のみならず、地元の事業者や学校、市民ボランティアの方々との連携を
図って編集しています。また、商店会の事業費などの他、地域の方々のサポート
費用等で運営・発行しています。ご理解とご協力をいただけると幸いです。